てっぺんの葉っぱ

私たちの葉っぱ

5年　M・Yさん

てっぺんの葉っぱに込められた思いとは？

この本を読んだ時の、最初の疑問でした。そもそも私は、てっぺんの葉っぱは、木の一番上にあり一番太陽の光を受けているため、一枚しかないと思っていました。しかし、この物語の中では、てっぺんの葉っぱは複数枚あったのです。てっぺんの葉っぱが複数枚あることを通じて、筆者が伝えたいことがあるのだと私は考えました。

「てっぺんの葉っぱが一枚とはかぎらないみたいに、答えだって一つじゃないかもしれない。」という一節を読んで、筆者が伝えたいのは「答えは決して一つではない」という事が分かりました。その時、私は兄弟とケンカするときの事を思い出しました。なぜなら、ほとんどのケンカの原因は、自分や相手の「答え」が同じではなく、またお互いに相手の「答え」を認めないからです。まさに「答えが一つではない」という状況です。そして、自分の「答え」から相手の「答え」に無理矢理変えないと、仲直りはできないのか？と思うことがあります。

この本の、考えることが苦手な主人公のマチは、自分の悪かったところを自分なりに考えて、「答え」を出していきます。そんな姿をみて私は、人には色々な考えがあり、その人なりの「答え」があるからこそ、「答え」は一つとは限らないことは普通の事だと気づきました。また、けっして無理に自分の「答え」を変えないで、お互いの「答え」を認め合う大切さを知ることができました。

したがって、兄弟と「答え」が同じではないケンカになりそうなときは、お互いの「答え」を認め合うことを心がけて、色々な人の「答え」を大切にしていこうと思います。